



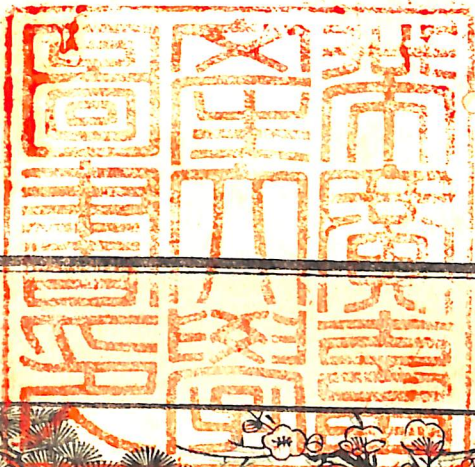
安政三年丙辰新鐫

輕騎加刺別印姿掣手

前編

46293

披雲館藏板



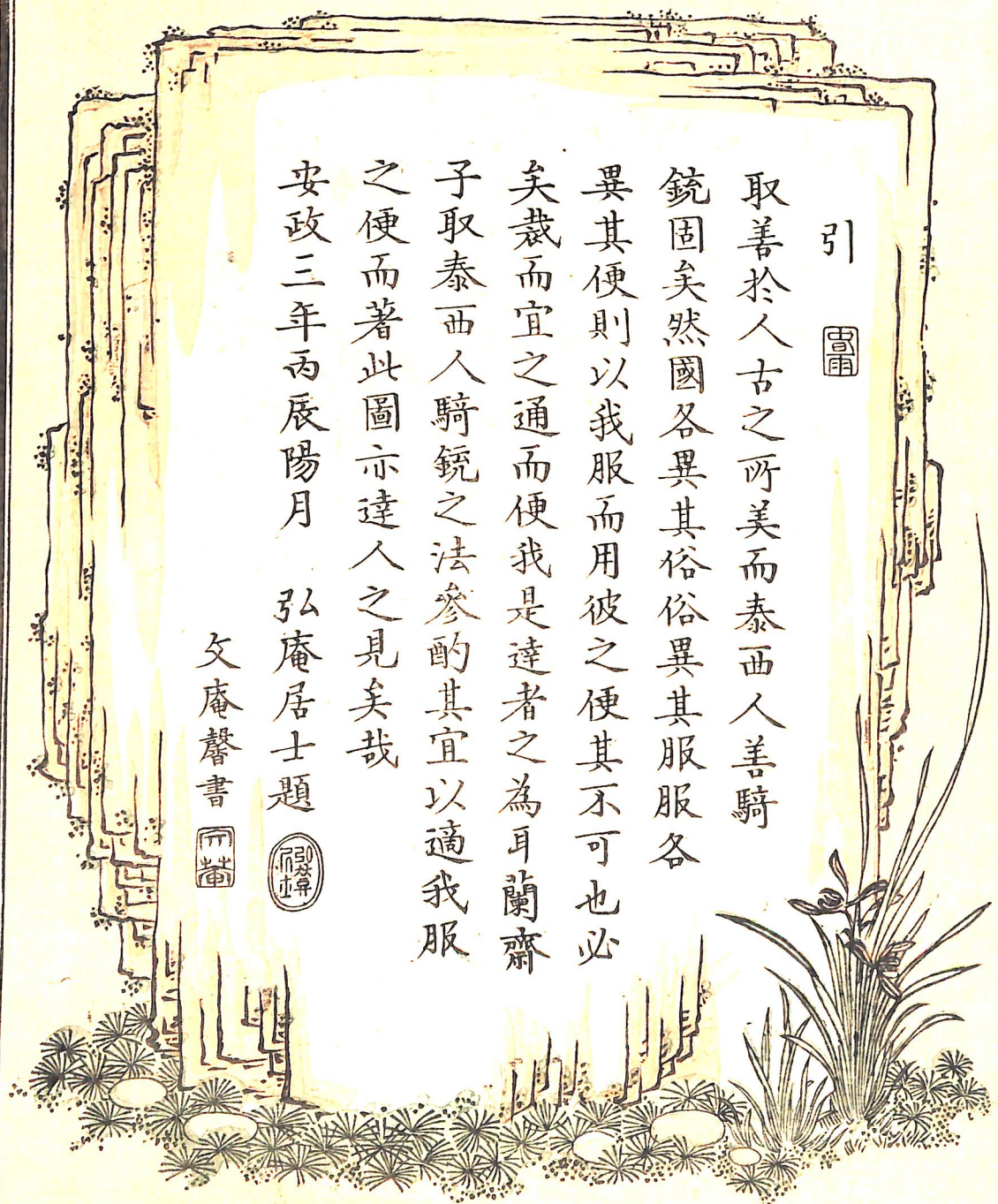
引圖

取善於人古之所美而泰西人善騎
銃固矣然國各異其俗俗異其服服各
異其便則以我服而用彼之便其不可也必
矣裁而宜之通而便我是達者之為耳蘭齋
子取泰西人騎銃之法參酌其宜以適我服
之便而著此圖亦達人之見矣哉

安政三年丙辰陽月

弘庵居士題

文庵馨書



輕騎加刺別印姿制總目次

卷之一

輕騎加刺別印銃之圖

コロンドハークノ圖

波爾斯亞ノ裝馬

西洋郡主鞍馬ノ圖

鞍馬ノ圖

西洋君主鞍馬ノ圖

上馬初動作韁ノ効用左右六圖

第五動作韁ノ効用左右二圖

上馬ノ式十二圖

教導基本第二套

馬上ノ騎兵ヲ教導スルノ法

第一教節

馬ニ騎上スルニ臨ンテ騎士ヲ要スルノ姿制

馬ニ騎上スルノ法

馬上騎士ノ姿制

左手ニ韁ノ兩條ヲ交叉シ把ルノ法

韁ノ兩條ヲ雙手ニ分チ把ルノ法

右手ヲ以テ韁ノ兩條ヲ交叉シ把ルノ法

韁ヲ使用スルノ法

韁ノ効用

脚法ノ効用

裼馬ヨリ下ルノ法

正面向ノ法

右轉メ馬ヲ牽テ厩ニ歸リ來ルノ法

行進ノ法

左轉メ馬ヲ歸ルノ法

行進ノ法

提要

下馬ノ法 提要

附錄

雅馬ヲ教習スル教條ノ經級進奥ノ要法
雅馬ヲノ武器ノ閃動銃火挑戰ノ騷鬧鳴動ニ慣習セ
シムルノ法

騎馬ノ列及綿多陳屯聚ノ法

騎馬操練ノ號令

輕騎加刺別印効用

通計十四章

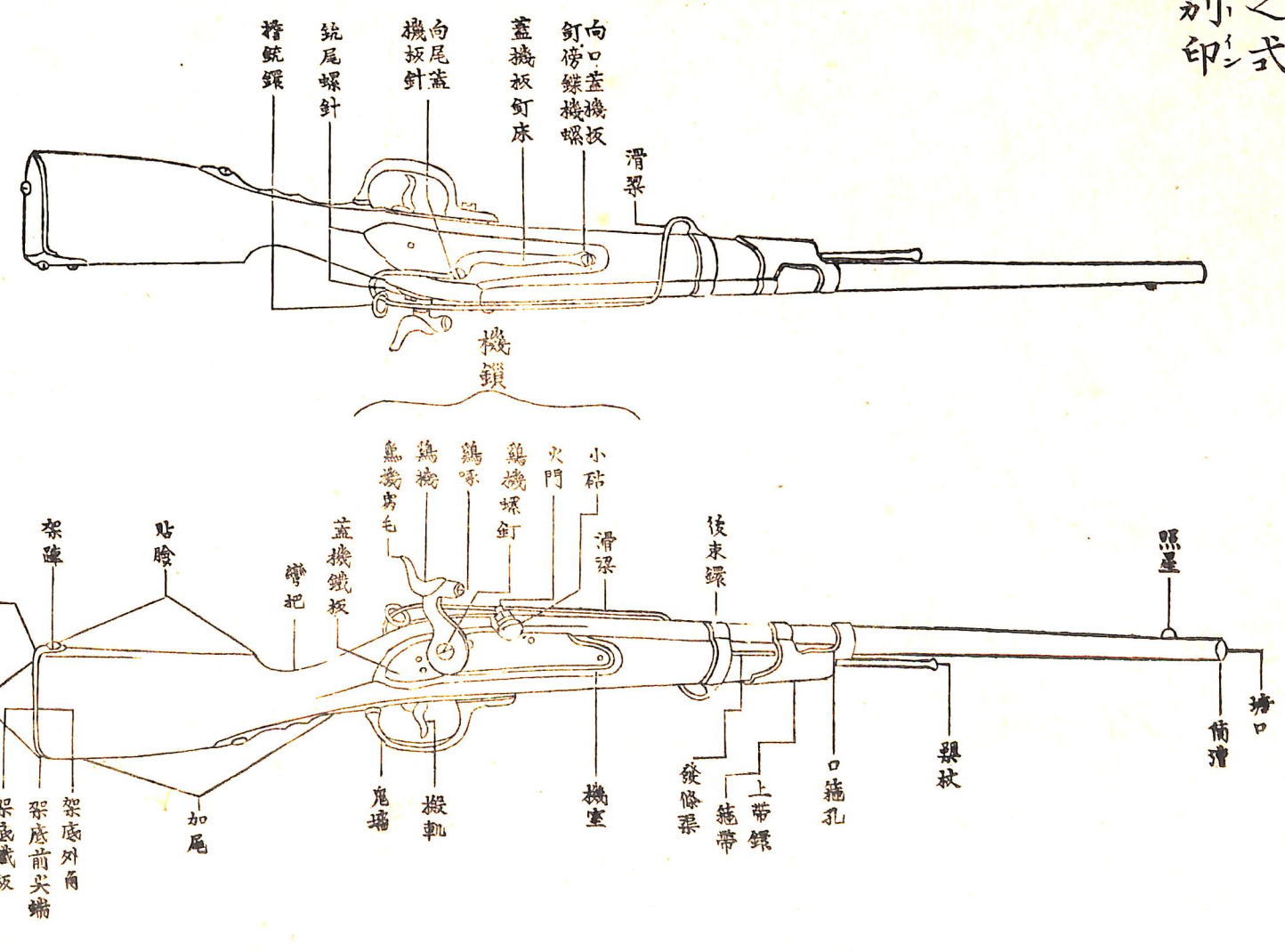
圖畫二十六

輕騎加刺別印姿制總目次畢

波斯亞



第一圖
騎射銃之式
加刺別印

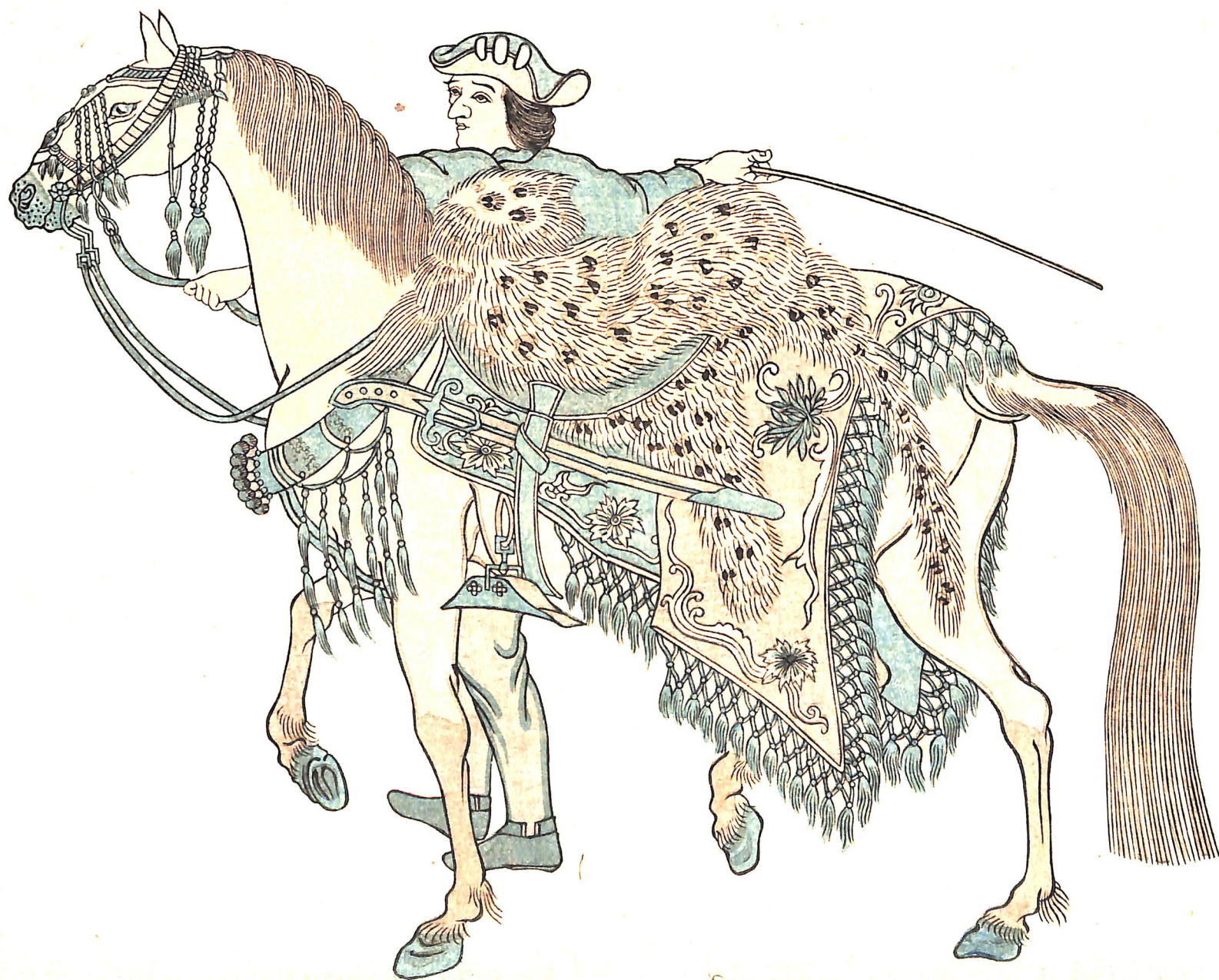


コロンドハーク



西洋

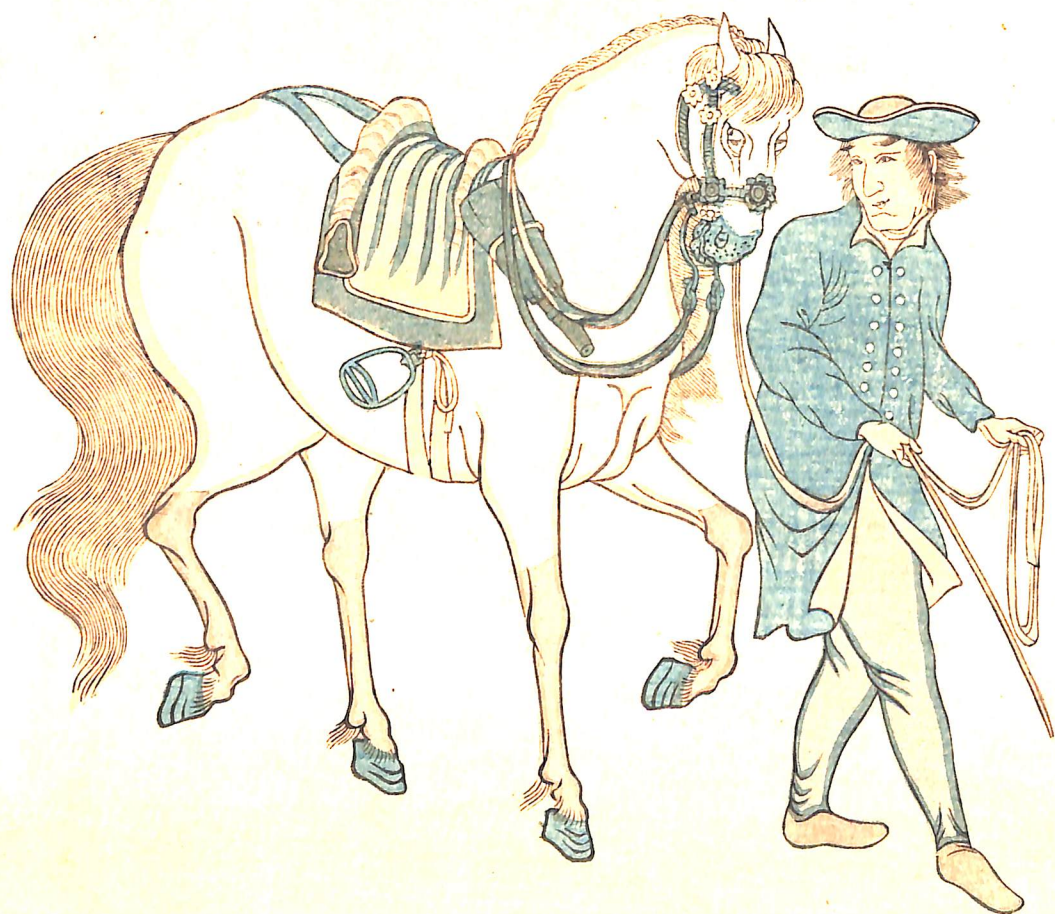
君主ノ馬
トルコ



西洋
郡主ノ馬
トルコイハム



西洋
鞍馬
メルケミル



例言

此書也和蘭爸究越列氏著ス所ノ教導基本ニ隨テ輕騎上馬下馬ノ法則及ヒ鞍韁効用等ノ説示數葉ヲ採摘シテ餘ハ之ヲ省略ス昔時西洋ニ於テ加刺別印銃ハ輕騎游軍胸甲兵都テ馬上ノ用トス今也一般步兵操練ノ如ク拔隊龍列細綿多ノ軍隊ヲ備フルニ至レリ故ニ捷利ノ道ハ彼此ノ宜シキヲ制シテ以テ敵ヲ謀ルニ在ルヘシ但シ騎銃ニ二種アリ一ハ和蘭一千八百二十年ノ式一ハ一千八百二十五年ノ式是レナリ各礮石銃ナリ今雷火銃ニ改正シテ用ニ備フ

卷首和蘭ノ鞍馬初動作ノ三圖第五動作ノ一圖及ヒ上馬ノ姿制鞍韁等ノ効用ヲ摹寫シテ後進ノ楷級ニ便ニス此ノ韁四圖ノ効用ヲ再思シ自得スル時ハ其餘ハ圖説一廻ニノ其要領ヲ得ヘシ但シ下馬ノ姿制ハ上馬ニ相反スルノ法ト令トニ依ルヲ以テ異ナリトス今茲ニ和蘭ノ例左

方ノ上馬ヲ我カ右方ノ上馬ニ變易シ左方ノ上馬及ヒ韁ノ効用ヲ次ニ摹寫シ騎士嗣テ左方上馬下馬ノ法ニ及ボサシムベシ

馬若炮聲ニ馴レス驚走スル時ハ耳ニ眞綿適宜ヲ挿入シ木綿三四尺ヲ以テ馬ノ兩耳ヲ後方ヘ伏セ傾ケ之ヲ掩閉住意スヘシ騎士既ニ銃炮ヲ採テ發射スルニ至リテハ馬頭ヲ微右方ヘ向ケ炮口ヲ敵ト對向シ其姿制ヲ採ルヘシ馬素ヨリ膽ナシ故ニ物ニ驚愕スルヲ安ク飛走スルカ故ニ過チ無キヲ能ハス各任意シテ之ヲ謹誡スヘシ上馬ノ式ハ幾箇ノ動作ヲ以テ附號ヲナスト雖凡一動作前ニ既ニ韁ノ効用アリ余故ニ之ヲ初動作トス初動作ノ後六動作ヲ以テス予唯一二三ノ順序ヲ以テ之ヲ附號ス餘ハ圖説相照シテ之ヲ參看スヘシ

安政三年丙辰中秋上澣

蘭齋熊坂建誌



輕騎加刺別印姿制卷之一
教導基本第二套

○馬上ノ騎兵ヲ教導スルノ法

第一教節

本方右方上馬ノ姿制ニ改正ス

○此第一教節ハ務メテ教師一名ツ、各騎ヲ領シ一騎ツ別ニ之ヲ教導シ以テ教導益ニ精細ナルヘシ

○此教導ハ馬ニ「名」テレル、テレンス（按）一種ナルニ騎ノヲ装シ馬褌ヲ被セテ騎座スヘシ（按）ザスルヲニ韁ヲ用

○馬ニ騎上スルニ臨ンテ騎士ヲ要スル姿制

○騎士其馬ヲ背面ニ致シ馬頭ヲ距ル一步ニシテ馬前ニ立チ右脇ヲ韁而條ノ間ニ穿テ入レ左方ノ韁ヲ右方ノ韁上ニ交又シ致シ右手ヲ以テ其兩條ヲ滿掌ニ束把シ韁端ヲノ其拳外ニ出ル六寸ナラシメ其拳ヲ心窩上ニ貼ケ左手ヲ脇肋ニ沿テ下垂シ兩踵ヲ將テ體性ニ從テ多少緊接メ同向線ニ向テ兩跗ヲ以テ曲尺ヨリ少減メ之ヲ開キ

兩膝ヲ以テ木僵ナル一ナク寛ニ之ヲ伸シ身體ヲ正直ニ體骨ニ依托シ微俯シ兩肩ヲ後ヘニ引テ平等ニ下垂シ胸ヲ張り兩肘ヲ身體ニ緊接シ左手ノ掌ヲ微外面ニ翻シ其季指ヲ裏足ノ縫界ニ沿テ安ケ頭首ヲ寛容ニ直立シ腮トノ達斯ヲ蔽陰セサル様ニ之ニ進迫シ兩眼ヲ正前ニ注着ルヘシ

○馬ニ騎上スルノ法 輕騎ノ所行 一勢節六動作

○其令ヲ下ス一左ノ如シ

意ヲ着ケヨ 準備セヨ 座スル爲ニ 騎上ニ

○辭ノ第一句ヲ聽テ左手ヲ以テ左肩ヲ距ル一尺ニシテ

左肩ノ高サニ舉ゲ其諸指ヲ拳屈シ其拇指ヲ前面ニ向ケ以テ經騎銃ヲ執ル狀ヲ扮装シ之ト一齊ニ左足ヲ右足前

ニ進メ致シ左踵ヲ右足心ヲ距ル一六寸ニシテ正ニ右足心ト相對向セシムヘシ

○第一動作令辭ノ第二句ヲ聽テ則チ第一動作ヲ起ス

第一圖



初動作第一圖
騎士馬ヲ背ニ致シ馬頭ヲ距ル一歩ニノ馬前ニ立ち右膝ヲ韁兩條ノ間タ下ヨリ穿チ入ルヘシ

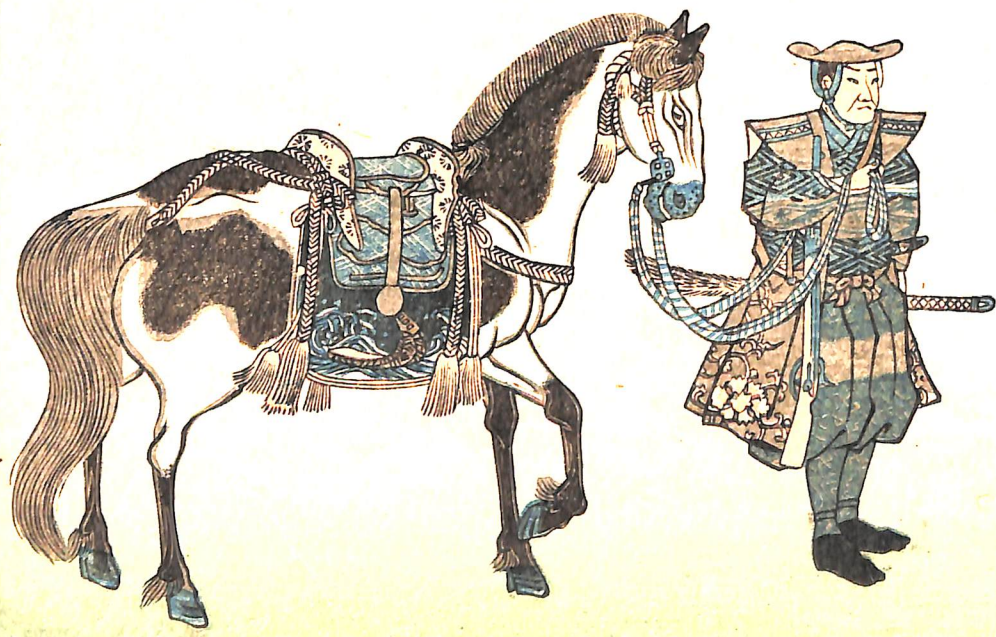
初動作第二圖
騎士左方ノ韁ヲ右方ノ韁ノ上ニ交又シ右ノ手ヲ以テ其兩條ヲ滿掌ニ束把スルノ形樣タリ



初動作第三圖
騎士韁ノ兩條ヲ滿掌ニ束把シ韁ノ端シヲ六寸拳ノ外ニ出シ心窩上ニ安貼スル形樣タリ



第二圖



第五動作ノ圖
騎士右ノ手ノ間ニ韁ノ兩條ヲ挿入シ他ノ四指ヲ以テ韁ノ兩條ト共ニ鬚ノ毛ヲ採ヘシ



○韁ノ効用

○右方左方上馬韁ノ効用ヲ示ス但シ後學ノ童蒙ヲノ了解シ易キヲ欲シ圖說ヲ左右ニ別ツ其圖說共ニ相同シ唯左右ニ變換スルヲ異ナリトス

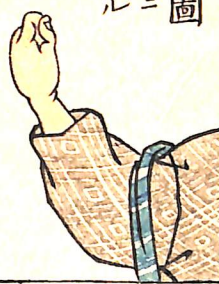
○右方ノ上馬ハ韁ノ効用右手ニ掛レリ左方上馬ノ韁ハ又左手ニ掛レリ

其法微兩足尖ヲ舉テ左轉背面向ヲ爲スヘシ
○第二動作ハ輕騎銃ヲ以テ肩ヲ超ヘテ背後ニ擲ケ送ル
狀ヲ扮裝シ左手ヲ以テ兩韁端ヲ把リ其諸指甲ヲ下ニ向
ケ右手ヲ以テ馬口ヲ距ル一六寸ニノ韁ノ兩條ヲ束把シ
其拇指ヲ馬頭ニ向ケシム
○第三動作ハ左手ヲ舉ケ韁ノ兩條ヲ以テ先ツ馬ノ左ノ
耳ヨリ穿チ納レ馬頭ヲ超テ運ヒ致シ其拇指ヲ以テ韁ノ
兩條ヲ分疏シ其諸指甲ヲ下ニ向ハシム
○第四動作ハ左足ヨリ歩ヲ起シ進ムル一二歩ニメ馬ノ
右肩ニ對向シ左足尖ヲ以テ右轉向ヲ爲シ之ト一齊ニ韁
ノ兩條ヲ固把メ放縱スル一ナク左踵ヲ引テ右踵ニ附接
○第五動作ハ左手ヲ以テ其臑ノ長サニ盡シ之ヲ起シテ
韁ノ兩條ヲ舉ケ右手ヲ馬頸上ニ滑汰シ送り其季指ヲ韁
ノ兩條ノ間ニ挿入シ他ノ四指ヲ以テ韁ノ兩條ト共ニ鬚
毛ヲ把ル一握リ

○第六動作ハ右手ヲ以テ韁端ヲ放テ其臂ヲ馬脊ニ貼ケ
其手心ヲ胛上ニ安妥ス
○此ニ於テ尤ノ令ヲ下ス
騎上シ 座セヨ 一勢節二動作タリ
○第一動作ハ兩掌ヲ杖テ飄然トメ身體ヲ浮揚ノ直立シ
下身ヲ馬肩ノ高サニ舉クヘシ
○第二動作ハ右脚ヲ伸シ馬ノ臀ニ觸ル、一ナクメ之ヨ
リ回ラシ軟ト馬脊ニ騎座スヘシ
○附考此ニ於テ輕騎ハ其輕騎銃ヲ降下スル狀ヲ扮裝
スヘシ

○馬上騎士ノ姿制
○頭首ヲ將テ寬ニ昂隆シ直立ノ兩肩ヨリ離レ抽ク
○雙肩ヲ垂レテ後ヘニ引キ胸ヲ張り兩臑ヲ懸遊セシメ
○兩肘ヲ常態ニ下垂スヘシ
○兩臀ヲ齊ク馬脊ニ座着シ下身ヲ前ニ進メ腰ヲ直立メ

騎士初動作第一圖
致馬頭ヲ背ニ
一歩ヲ馬距
前ニ立チノ
ヲ兩條ノ間
下ヲ穿テ入
ル



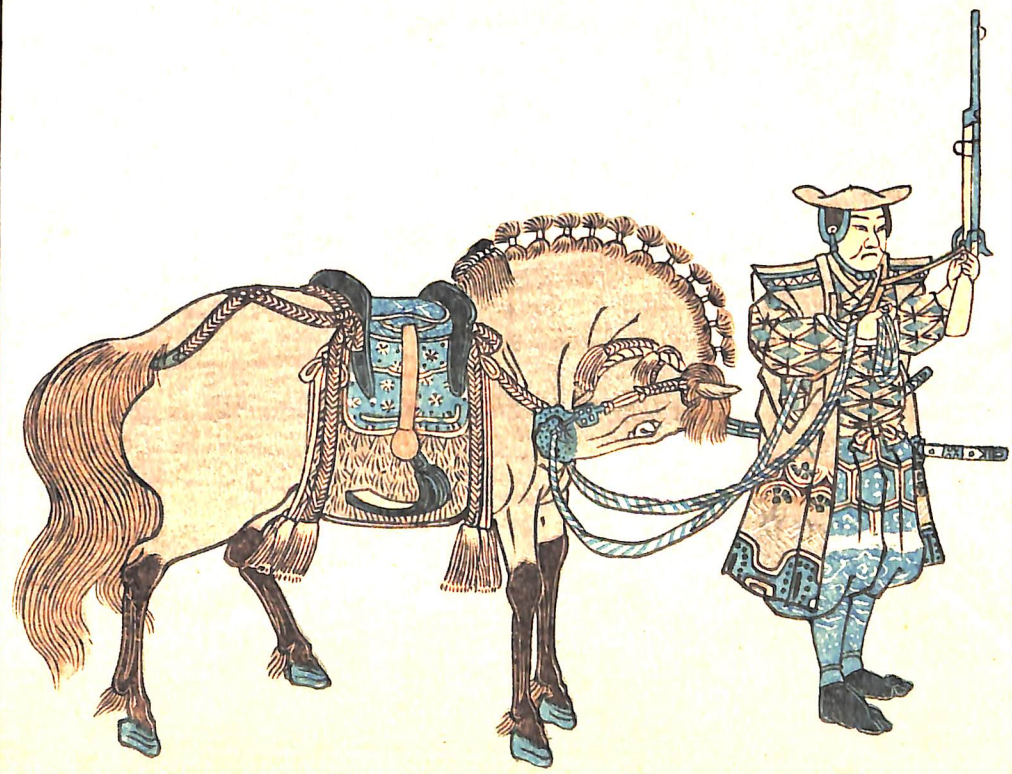
騎士初動作第二圖
龍方ノ右ノ上
ニ交テ其ノ
手ヲ以テ兩
條ヲ束テ
把スル形
ヲ



騎士初動作第三圖
滿掌ニ束テ
ノ端ヲ六寸
外ニ出シ心
ニ安上スル
様ニ



第三圖

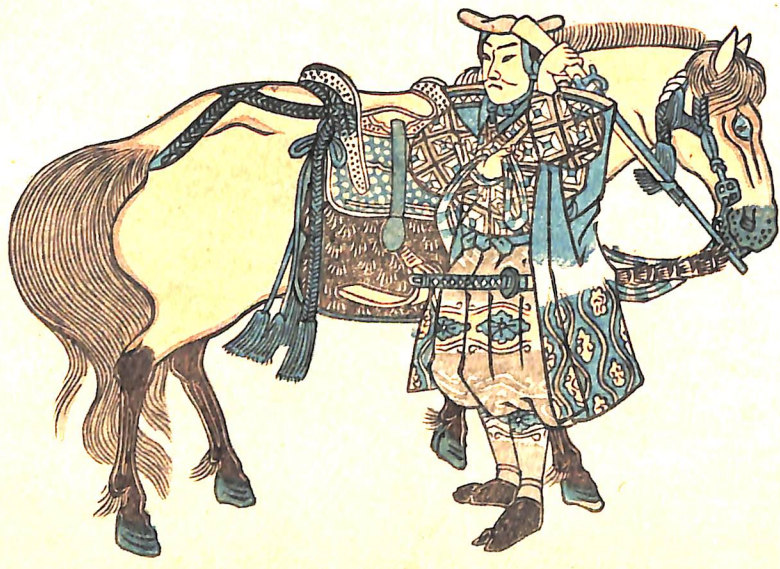


第四圖

第五動作
騎士ノ兩手
季ノ間ニ挿
入シテ毛ヲ
以テ採ル共
ニ



運轉自在ノ支柱ヲ
籍ラズ獨リ騎士自己
身上ノ重力ニ憑テ其
姿勢ヲ保固ノ類サス
○雙股ハ左右齊ク馬
脊ヲ狹ミ跨リ股根ヨ
リ膝ニ至ル迄股ノ平
面ヲ照シ守リテ之ヲ
轉換シ唯兩股ト雙脚
ノ自己ノ重刀ノ趣ク



所ニ信セテ兩股ヲ伸スヲ要ス○兩膝會ハ緊固ナルヲ要ス

○兩脚ハ懸遊ノ常態ニ下垂スヘシ

○ウーテル、テレンスノ韁ハ雙手各之ヲ把リ諸指ヲ拳屈シ、拇指ヲ伸シテ各韁條上ニ安妥シ、兩拳ヲ臂ノ高サニ舉ケ致シテ能ク固定シ、兩舉相開キ距ル一六寸ニシテ左右ノ諸指相對向スヘシ

○ウーテル、テレンス韁ヲ長縱スルノ法

○其令ヲ下ス一左ノ如シ

意ヲ着ケヨ 長縱セヨ 韁ヲ一勢節二動作タリ

○第一動作ハ左韁ヲ長縱スルニハ右手ノ拇指ト食指ヲ以テ左拳ノ後ヘニ當ツテ左韁ヲ併セ把リ、兩拇指ヲメ前後ト相對向セシムヘシ

○第二動作ハ左掌ヲ洞開シ、左韁ヲ掌裡ニ滑汰シ、縱メテ兩舉相接附スルニ至リ、嗣テ左掌ヲ閉拳シ、其韁適宜ニ長縱シ、定マリテ兩手ヲ分チテ其水位ニ復ス

人

○右韁ヲ短縮スルニハ上ニ相反スル法ヲ照シ行フヘシ

○ウーテル、テレンスノ韁ヲ短縮スル法

○其令ヲ下ス一左ノ如シ

意ヲ着ケヨ 短縮セヨ 韁ヲ一勢節二動作タリ

○第一動作ハ右手ノ拇指ト食指ヲ以テ右拳ノ後ヘニ當ツテ右韁ヲ併セ把リ、兩拇指ヲメ前後ニ相接次セシムヘシ

○第二動作ハ左掌ヲ洞開シ、其韁ニ沿テ其掌裡ヲ滑汰シ、送り兩掌相隔絶スル一二三寸ニ至リ、左掌ヲ閉拳シ、其韁適宜ニ短縮シ、定マリテ兩手ヲ分チテ其水位ニ復ス

○右韁ヲ長縱スルニハ上ニ相反スル法ヲ照シ行フヘシ

○左手ニ韁ノ兩條ヲ交叉シ把ルノ法

○其令ヲ下ス一左ノ如シ

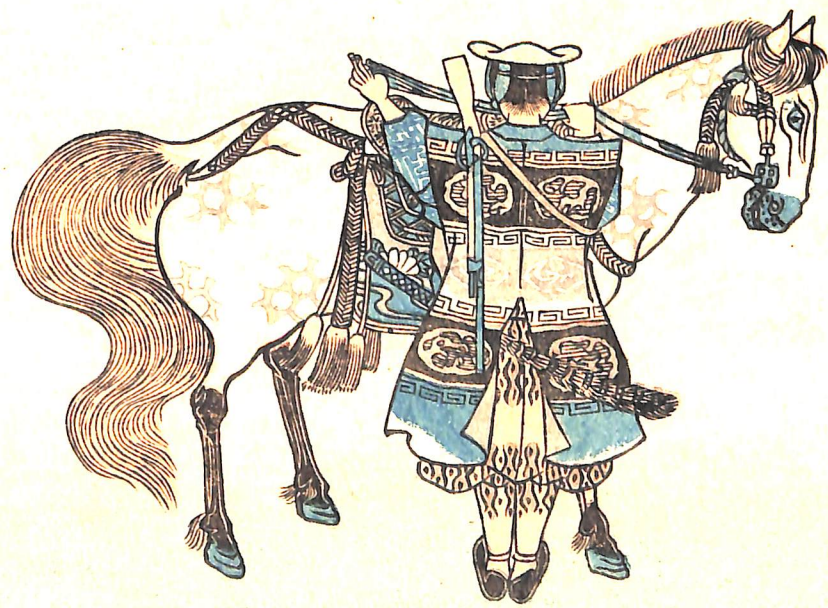
意ヲ着ケヨ 韁ノ兩條ヲ交叉把レ 左手ニ

一勢節二動作タリ

○第一動作ハ左拳ヲ微轉回シ、右韁ヲ左掌ニ交付メ、左韁

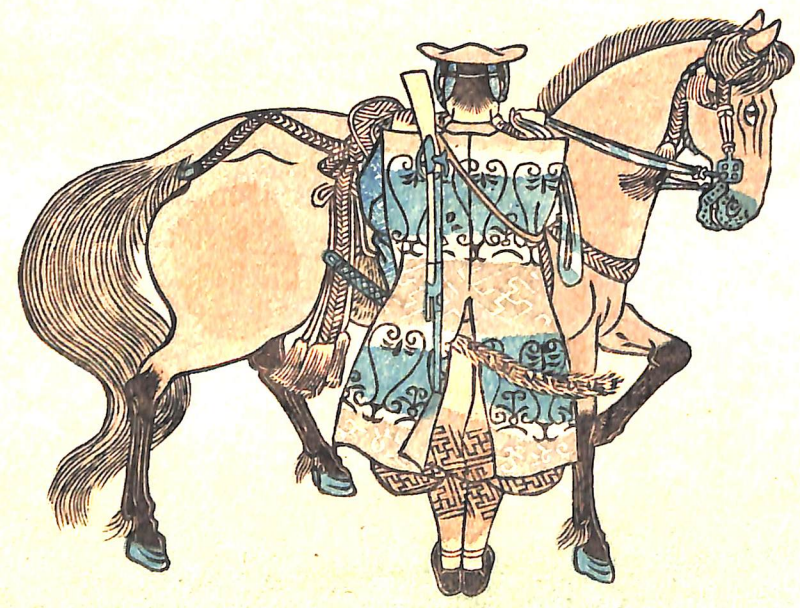
下ニ交又シ把リ右韁
ノ後端ヲメ左掌ヨリ
其季指ノ側傍ニ流シ
出サシムヘシ
○第二動作ハ右手ヲ
脇肋ニ下垂ス
○韁ノ兩條ヲ雙手
ニ分チ把ルノ法
○其令ヲ下スノ左ノ
如シ
意ヲ着ケヨ 分チ
把レ 韁ノ兩條ヲ
一勢節一動作多
○第一動作ハ右手ヲ
以テ右韁ヲ把リ兩拳

第五圖



相開キ距一六寸ニメ
右手ヲ其本位ニ復ス
○右手ヲ以テ韁ノ
兩條ヲ交又シ把法
○其令ヲ下ス一左ノ
如シ
意ヲ着ケヨ 韁ノ
兩條ヲ交又シ把レ
右ノ手ニ
一勢節二動作タリ
○第一動作ハ右手ヲ
微轉回シ左韁ヲ右手
ニ交附メ右韁下ニ交
又シ把リ左韁ノ後尾
ヲ右掌ヨリ其季指

第六圖



ノ側傍ニ流シ出サシムヘシ
○第二動作ハ左手ヲ脇肋ニ浴テ下垂ス
○韁ノ兩條ヲ復ヒ雙手ニ分チ把ラシムルニハ
「分チ把レヨ」 韁ノ兩條ヲト令ン
○上ニ相及スル法令ヲ照シ行テ之ヲ施行セシムヘシ
○韁ヲ使用スルノ法
○體幹嚴然トメ居常直立シ唯兩膝獨リ作用ヲ致シ體幹
ニ水僵ノ累ヒテ起サス兩膝ノ運動拳ヨリ肩會ニ至ル迄
呈發メ至ラサル所ナク韁ノ効用ハ居恒必ス脚ノ効用ト
相響應ノ馬騎士ノ欲スル所ヲ聽カシムルノ媒妙タリ
○韁ノ効用
○些ク兩拳ヲ舉レハ勒馬豫行シ此ヨリ較高ク且ツ較此
シ多ク勢力ヲ用テ之ヲ舉レハ馬ヲメ駐立セシムヘシ
○右韁ヲ開キ又ハ緊引スルハ其馬ヲメ右ニ旋回セシ
ムヘシ
○左韁ヲ緊引スルハ其馬ヲメ左ニ旋回セシム

ヘシ
○兩手ヲ些ク下垂スレハ輒チ其馬ヲメ前進セシム

○脚法ノ効用

○脚法ヲ行フハ漸次ニ之ヲ緊括シ其効力ノ剛柔ハ恒ニ
馬ノ顚鈍ニ從テ之ヲ斟酌シ行フヲ要ス而メ凡ソ脚法ハ
馬ヲメ前進セシメ馬體ヲ支柱シ又其左右ニ旋回スルヲ

助クルニ供ス

○騎士其馬ヲメ前驅セシメント欲スルハ毎ニ兩脚ヲ
腹帶ノ後ヘニ緊括スルヲ要ス且此作用ニ施行スルニハ
注意ノ兩膝ヲ固定ノ放開セス亦之ヲ引キ舉ゲザルヲ要
ス是レ膝會ハ甚タ鞏固ナルヲ要スル故ナリ

○又其兩脚ヲ本勢ニ收メ復スルニハ初メ之ヲ緊括セル
同法ヲ照シ行フテ漸次ニ之ヲ其本位ニ收メ復スルヲ要ス

○裼馬ヨリ下ルノ法 和蘭ノ左方下馬ノ例

○其令ヲ下ス一左ノ如シ 意ヲ着ケヨ 準備セヨ 下ルヲ 一勢節二動作タリ

○令辭ノ第一節

按スルニ準備セヨ
ト唱フル一節ヲ云
ニ於テ韁ノ兩條ヲ左
手ニ交ヘ把リ右手ヲ
脇肋ニ搬ビ致シ輕騎
銃ヲ把ル動作ヲ施行
シ之ニ嗣デ右肩前ヲ
距ル一尺ニシテ銃ヲ
肩頭迄高舉ス
第一動作ハ令辭ノ第
二節
下ト唱ル一節ヲ云
ニ於テ其銃ヲ右肩後
ヘ擲ゲ掛ケル動作ヲ

第七圖



第八圖

行ヒ左手ノ四指ヲ緊
合メ髻毛ヲ握リ其拇
指ヲ食指ノ第二節ニ
伸シ致ス
○第二動作ハ右手ヲ
馬胛上ニ安シ其拇
指ヲ左方ニ向ケ他ノ
四指ヲ外面ニ向シム
下リヨ馬ヨリ
一勢節三動作タリ
○第一動作ハ兩掌ヲ
杖テ身ヲ起シ右脚ヲ
伸シテ馬臀ニ觸ル、
ナク此ヲ超ヘテ退
却シ嗣テ右股ヲ左股

